

## 特記仕様書

- 1 本仕様書はクビアカツヤカミキリ被害予防業務委託（特定外来生物防除等対策事業）についての特別事項を示すもので、本仕様書に定めのないものについては、下記の規則及び指針等に従うものとする。
  - （1） 奈良市契約規則
  - （2） 「奈良市土木工事標準仕様書 平成 27 年 4 月 奈良市」（奈良市ホームページ参照）
  - （3） 労働基準法
  - （4） その他関係法また、前記仕様書に定めのないものは、担当職員と協議の上その指示に従い施工するものとする。
  
- 2 施工時期
  - （1） 契約完了後、概ね 7 日を目途に担当職員と協議し業務内容を把握するものとする。
  - （2） 着手前に、作業方法及び日程等について担当職員と協議を行うこと。また、作業完了時には完了の報告を行うとともに、速やかに業務記録写真等の書類を提出しなければならない。
  - （3） 協議事項は、必要に応じ指示書等により指示を伝えるものとする。
  
- 3 責 務
  - （1） 施工中、道路交通の妨げにならないよう、危険箇所や必要と思われる場所には、標識等を設置し、安全を確保しなければならない。
  - （2） 請負者は施工時期並びに施工時間等について監督員に報告のうえ作業する。また、施工中においてトラブルが生じ、作業が中断するような事態が発生しないよう、十分注意しなければならない。
  - （3） 施工中においては付近住民または通行人等により苦情や被害が発生した場合は担当職員と協議し、受注者の責任においてすみやかに処理し、その結果を担当職員に報告しなければならない。
  
- 4 施工上の留意事項
  - （1） この業務は、佐保川沿いのサクラについて、クビアカツヤカミキリによる被害を予防するための樹幹注入を施工するものである。薬剤注入の施工に際し、以下の各事項を遵守すること。  
使用薬剤は、サクラを対象としてクビアカツヤカミキリ幼虫防除に適用され

る樹木用樹幹注入剤（殺虫剤）とし、リバイブ（容量：20ml 製造者：シンジェンタジャパン株式会社 農薬登録番号：第23743号）またはその同等品（薬効期間2年以上）とする。

(2) 使用量、使用回数等について（薬剤名：リバイブ）

樹木名	適用病害虫名	使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数	エマメクチン安息香酸塩を含む農薬の総使用回数
サクラ	クビアカツヤカミキリ	別添設計資料。 (ブロック別明細書) に準じる	契約時～ 担当職員の 指示による	薬剤販売元の 注意事項及び 下記(3)(4) 参照のこと	1回	1回

(3) 薬剤の注入について

- ①穿孔、注入する前に対象樹木が枯死していないか確認すること。枯死している場合は、その樹木への穿孔、注入を中止し、監督員に報告して指示を受けること。
- ②注入部位は地際部～1mの樹幹とするが、分枝、剪定枝、節、瘤等の直下からの注入は薬液の分散が悪くなるので避けること。また、空洞や腐朽部も避けること。
- ③穿孔は、ドリル等を斜め下方に向けて行い、孔径5mm～6mm程度、孔深5cm程度の注入孔を開ける。注入は、薬液が形成層に触れないよう充分に注意して注入容器のノズル先端を深く押し込んで行うこと。
- ④注入する薬剤の量は(2)の表のとおりだが、薬剤は樹木毎に1本単位で使用すること。
- ⑤薬剤を加圧注入する場合は、専用の注入容器を用いること。注入孔が複数となる場合は、樹幹の周辺に等間隔に分散させること。
- ⑥対象木が二股以上に分かれている場合、それぞれを1本の木とみなして所定量を処理すること。
- ⑦注入中は通行人等が薬剤容器に触れたりされないよう安全に配慮して管理すること。
- ⑧薬剤が完全に注入されたことが確認できたら、速やかに空容器を回収し、回収忘れがないよう確認すること。
- ⑨注入が終了した孔には、雨水や雑菌等の浸入および樹液流出を防ぐため、殺菌癒合剤、被覆塗布剤、木栓等で充填して適切に処置すること。

⑩注入したサクラには薬剤名、注入年度、樹木番号等を記載したラベルを地上1.5m超に貼り付けること。

⑪本薬剤は、自動車、壁等の塗装面、大理石や御影石等に付着すると変色するおそれがあるので、こぼしたり、飛散させたりしないように注意すること。

⑫本薬剤の使用に当っては、使用液量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、関係行政機関、販売会社等から指導があれば、それに従うこと。

(4) 薬剤の取扱いについて、取扱説明書の記載事項を遵守すること。

① 本薬剤を誤って飲み込んだ場合には吐かせないで、直ちに医師の手当を受けさせること。

②本薬剤は眼に対して刺激性があるので、注入の際は保護眼鏡を着用して薬剤が眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。

③作業の際は保護眼鏡、農薬用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣を着用すること。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをする。

④作業員以外の者、特に子供等が薬剤、容器に触れないよう注意し、注入中は作業現場に近づかないように配慮すること。

⑤本薬剤の保管に際しては、火気や直射日光をさけ、食品と区別し、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。

⑥指定可燃物（可燃性液体類）に属するので火気には十分注意すること。

(5) 施工写真について

①施工写真は、全注入木について施工中及び施工後の写真を撮影し、提出すること。

②上記写真には、施工年月日及び配置図番号を記載した黒板等を写り込ませること。

③薬剤について、使用前後の状況が分かる写真を撮影し、提出すること。

(6) 通行車両等の安全確保が必要な場合は、施工範囲の周囲に単管バリケード又はコーン、コーンバー等を設置し、安全な通行路を確保すること。混雑が予想される日は危険な作業は控えること。なお、現場の保全や規制に必要な設備（バリケード、保安施設、看板等）は土木工事共通仕様書（案）、土木請負必携を標準とし、費用は共通仮設費（率計上分）に含んでいる。

(7) 施工箇所の整理整頓・清掃を日々適切に行い、周辺の施設や立木等に被害を及ぼすことが無いよう留意して作業を行うこと。汚れた場合には住民等から苦情が出ないように清掃すること。清掃に要する費用は共通仮設費（率計上分）に含むものとする。

- (8) 作業終了後は、荒らした地面等や散乱した枝葉があれば、その修復や清掃を行うこと。
- (9) その他、問題が生じた際には、担当職員と十分協議のうえ、受注者の責任において処理するものとする。

## 5 提出書類

- (1) 業務完了届
- (2) 業務記録写真（紙媒体 1 部、併せて CD・DVD 等による提出願います）
- (3) 業務日誌

令和 7 年度

実施設計書

奈良市

( 当初 )

課長	課長補佐	課長補佐	係長	設計	検算	当初	変更	更	
作成年月日						当	初	更	
工 事 名	クビアカツヤカミギリ被害予防業務委託 (特定外来生物防除等対策事業)					樹幹注入による防除業務 一式			
工 事 番 号									
路線・河川名									
工 事 箇 所	奈良市法蓮町地内他								
当初設計金額 (変更前)	円					円			
変更設計金額 (変更後)	円					円			
変更請負金額 計 算 式	( 請 負 率 ) 当初請負額 ÷ 当初設計額 = ( 変 更 価 格 ) 変更設計工事価格 × 請負率 = ( 変更消費税等相当額 ) 変更価格 × 0.1 = ( 変 更 契 約 額 ) 変更価格 + 変更消費税等相当額 =					円 ÷	円 ×	円 ×	円 +

事務所名	奈良市	単価適用年月	令和 7年 7月
課名・係名		歩掛適用年月	令和 7年 7月
単価地区	1地区	損料適用年月	令和 7年 7月
適用工種	公園工事	諸経費適用年月	令和 7年 7月
調整区分		一般管理費 前払	補正を行わない
施工地域区分	補正を行わない	契約保証	補正しない
現場環境改善費	計上しない		
変更理由	<p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p>		

# 設計内訳書

工事番号:

工事名	クビアカツヤカミキリ被害予防業務委託（特定外来生物防除等対策事業）				公園緑地整備・改修		概要
	工事区分・事業	種別・細別	規格	単位	数量	単価	
クビアカツヤカミキリ被害予防業務				式	1		レベル1
特定外来生物（クビアカツヤカミキリ）防除作業				式	1		レベル2
樹幹注入による防除業務				式	1		レベル3
樹幹注入作業				ヶ所	3,334.0		単 1 号
直接工事費				式	1		
共通仮設				式	1		レベル1
共通仮設費(率計上)				式	1		レベル2
純工事費				式	1		
現場管理費				式	1		
工事原価				式	1		
一般管理費等				式	1		

# 設計内訳書

工事番号:

工事名	クビアカツヤカミキリ被害予防業務委託 (特定外来生物防除等対策事業)	規格	単位	数量	単価	事業区分 工事区分		金額	公園緑地整備・改修 クビアカツヤカミキリ被害予防業務 摘要	
						種別・細別	種別		概要	概要
工事価格										
消費税相当額			式	1						
工事費			式	1						
			式	1						

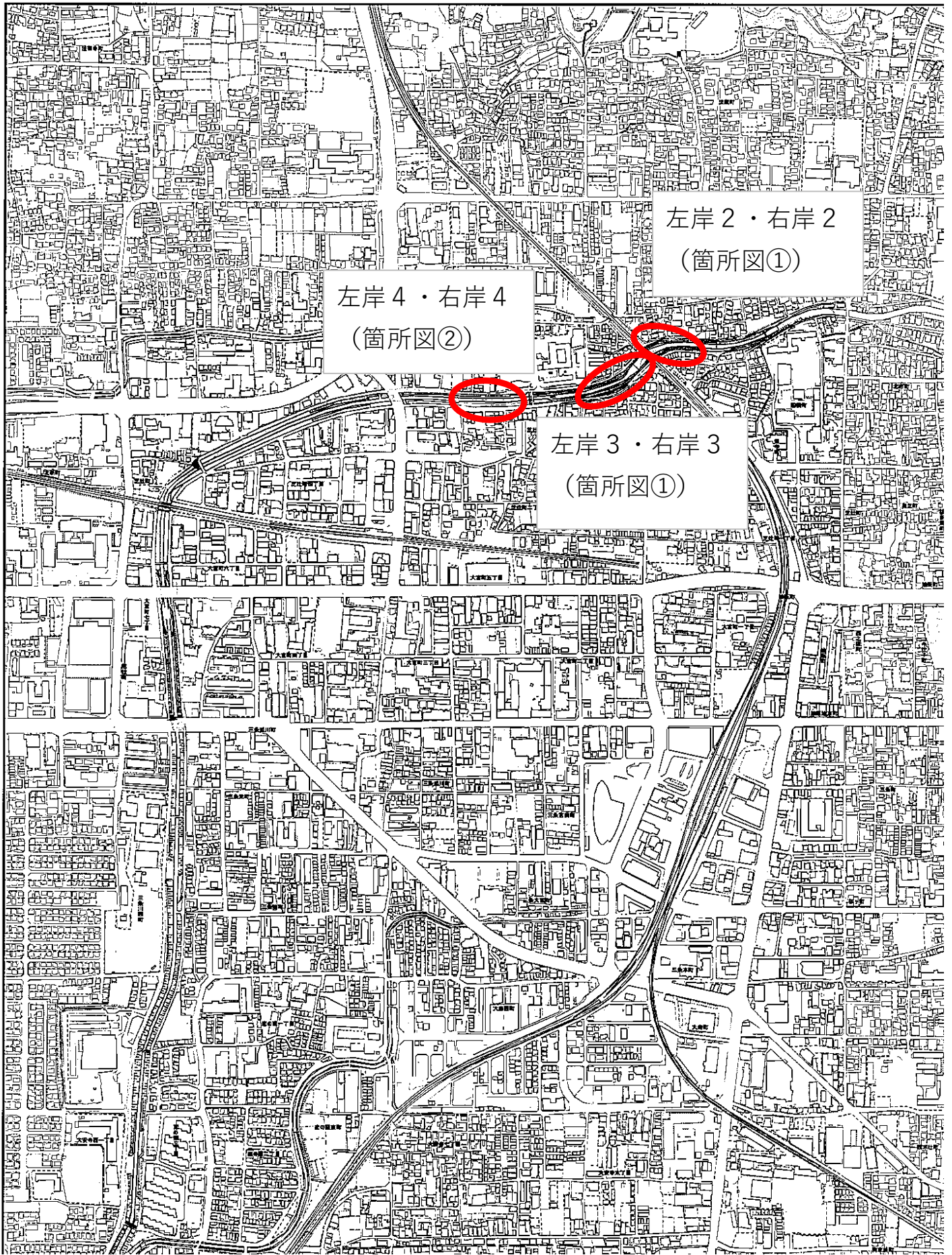


# 1次単価表

単 1号	樹幹注入作業	名称・規格	条件	単位	ヶ所 数量	割戻数量		金額	単価	摘要
						単価	金額			
		リバイブ 20ml		本	1					
		樹幹注入手間 穿孔・注入・被覆処理		ヶ所	1					
		計.								
		単価							円/ヶ所	

単価使用年月  
 2025.07  
 歩掛適用年月  
 2025.07  
 労務調整係数  
 1.000-0000-0-1.00 0.0 0

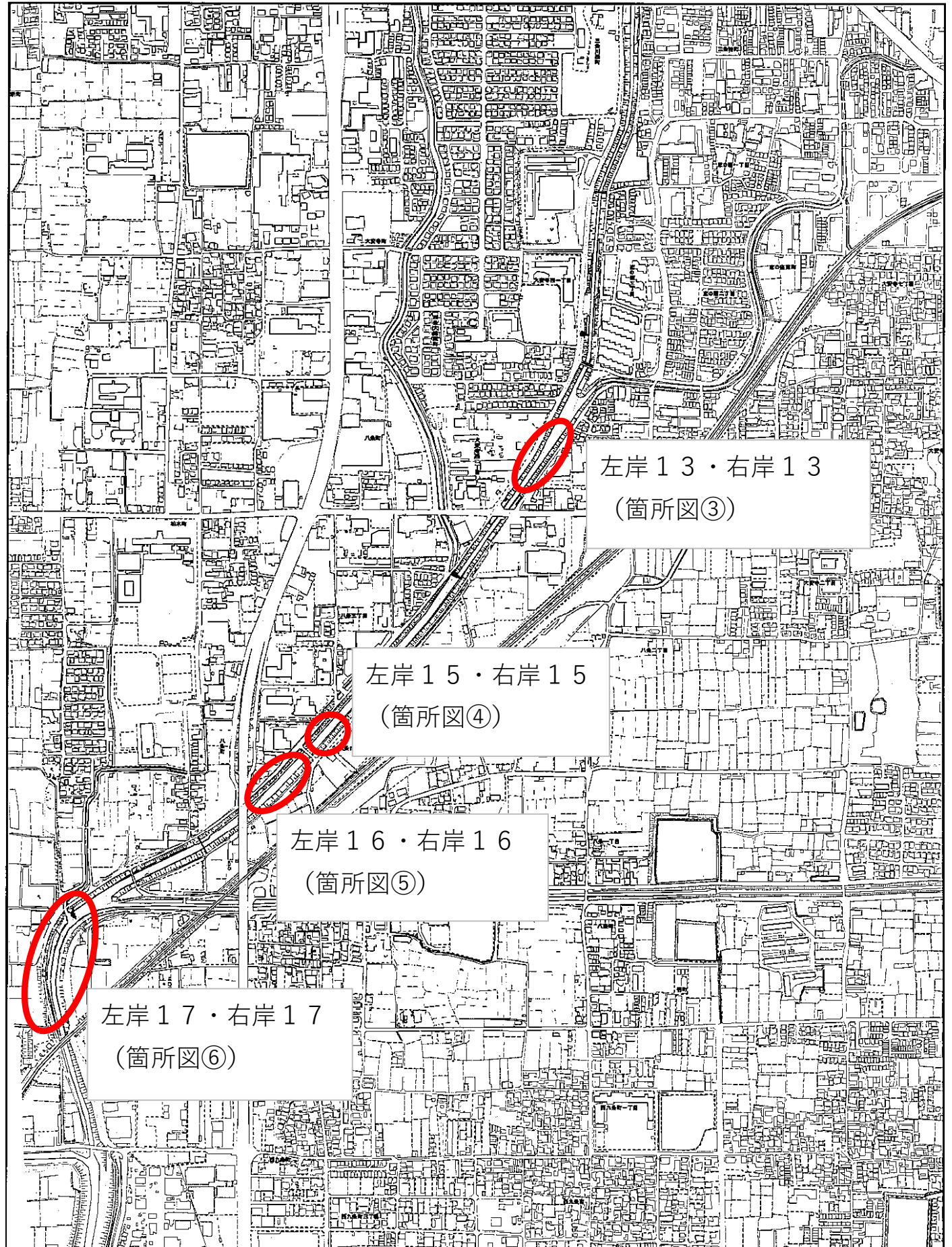




左岸 2 · 右岸 2  
(箇所図①)

左岸 4 · 右岸 4  
(箇所図②)

左岸 3 · 右岸 3  
(箇所図①)

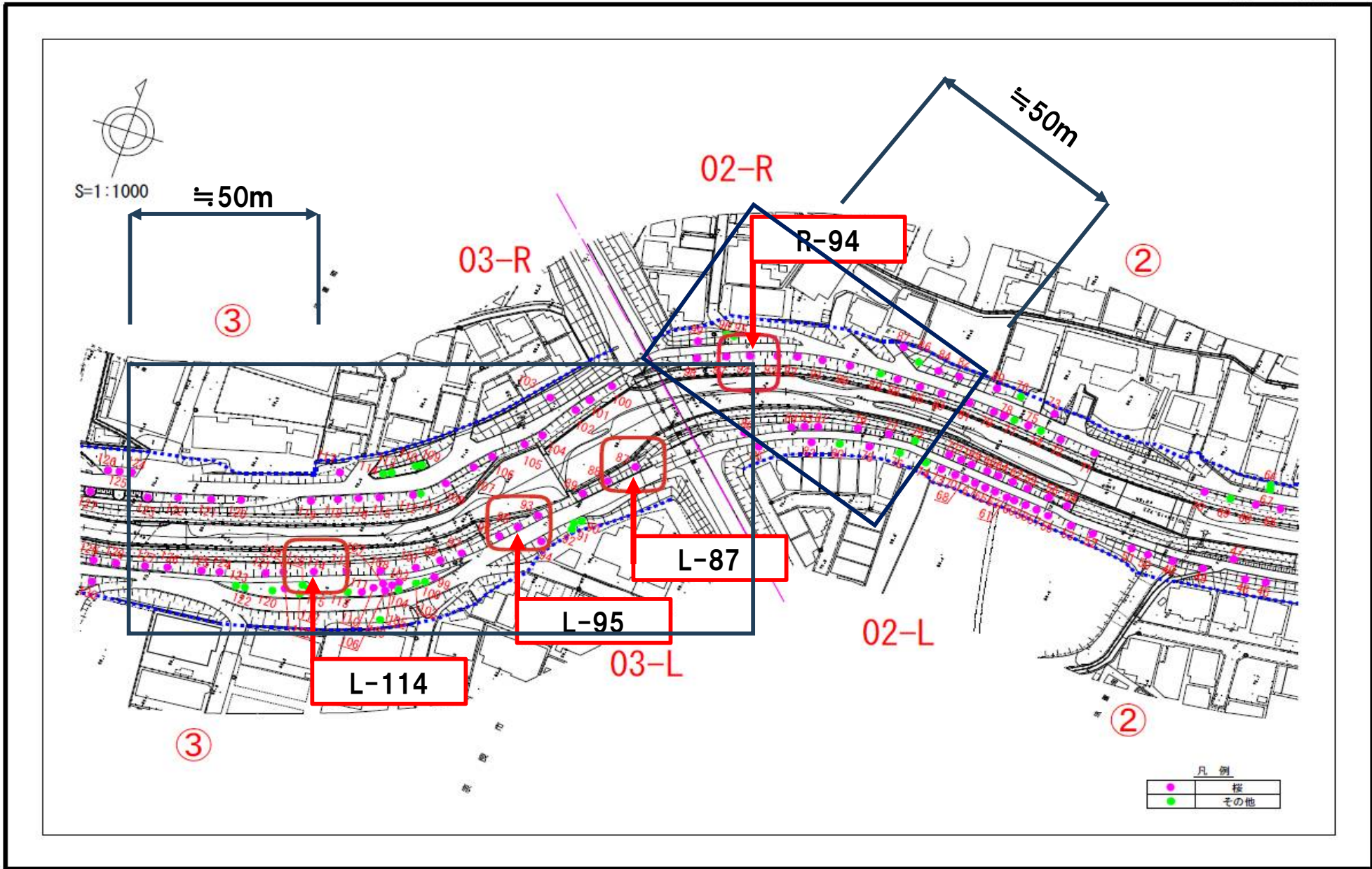


左岸13・右岸13  
(筒所図③)

左岸15・右岸15  
(筒所図④)

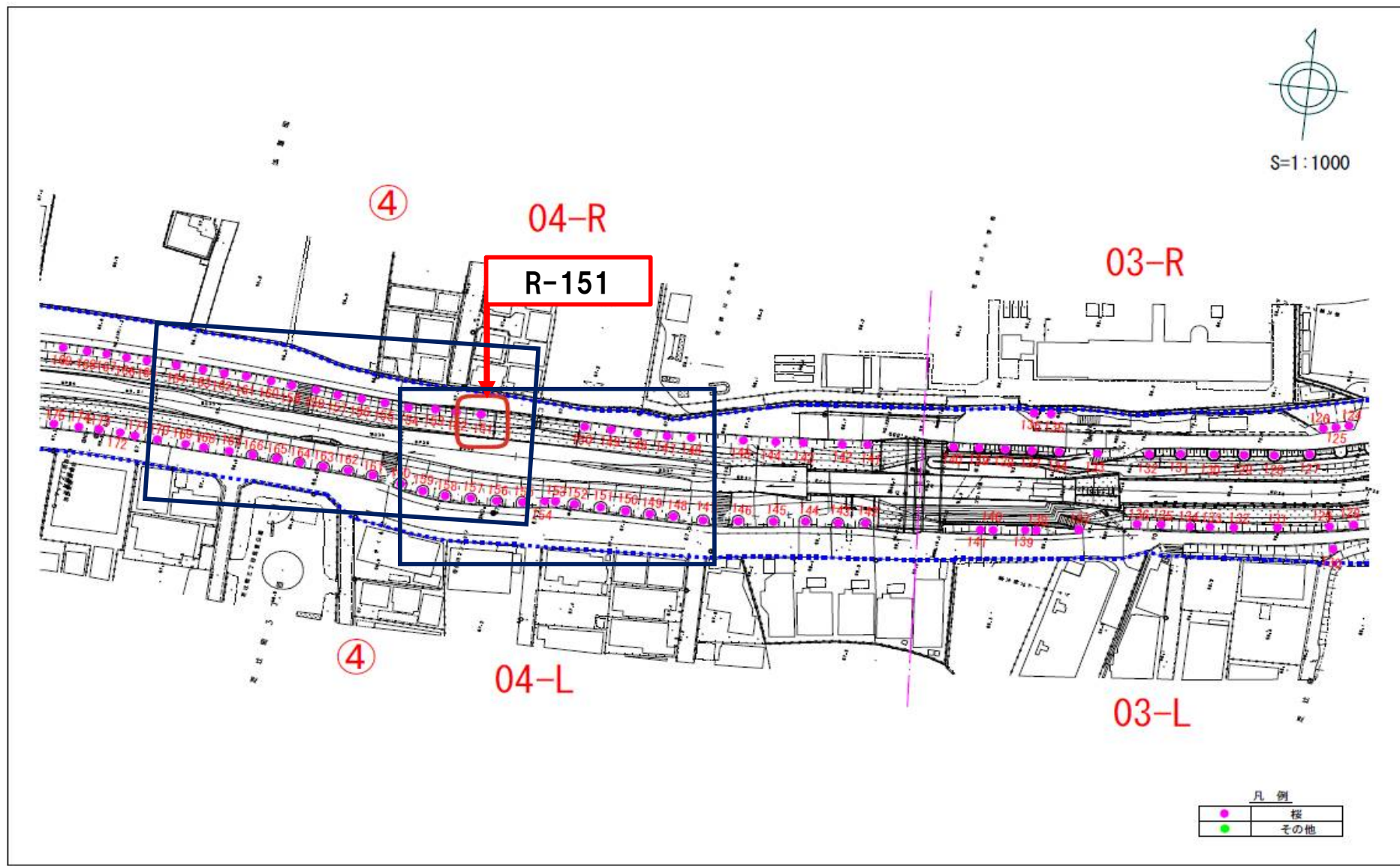
左岸16・右岸16  
(筒所図⑤)

左岸17・右岸17  
(筒所図⑥)

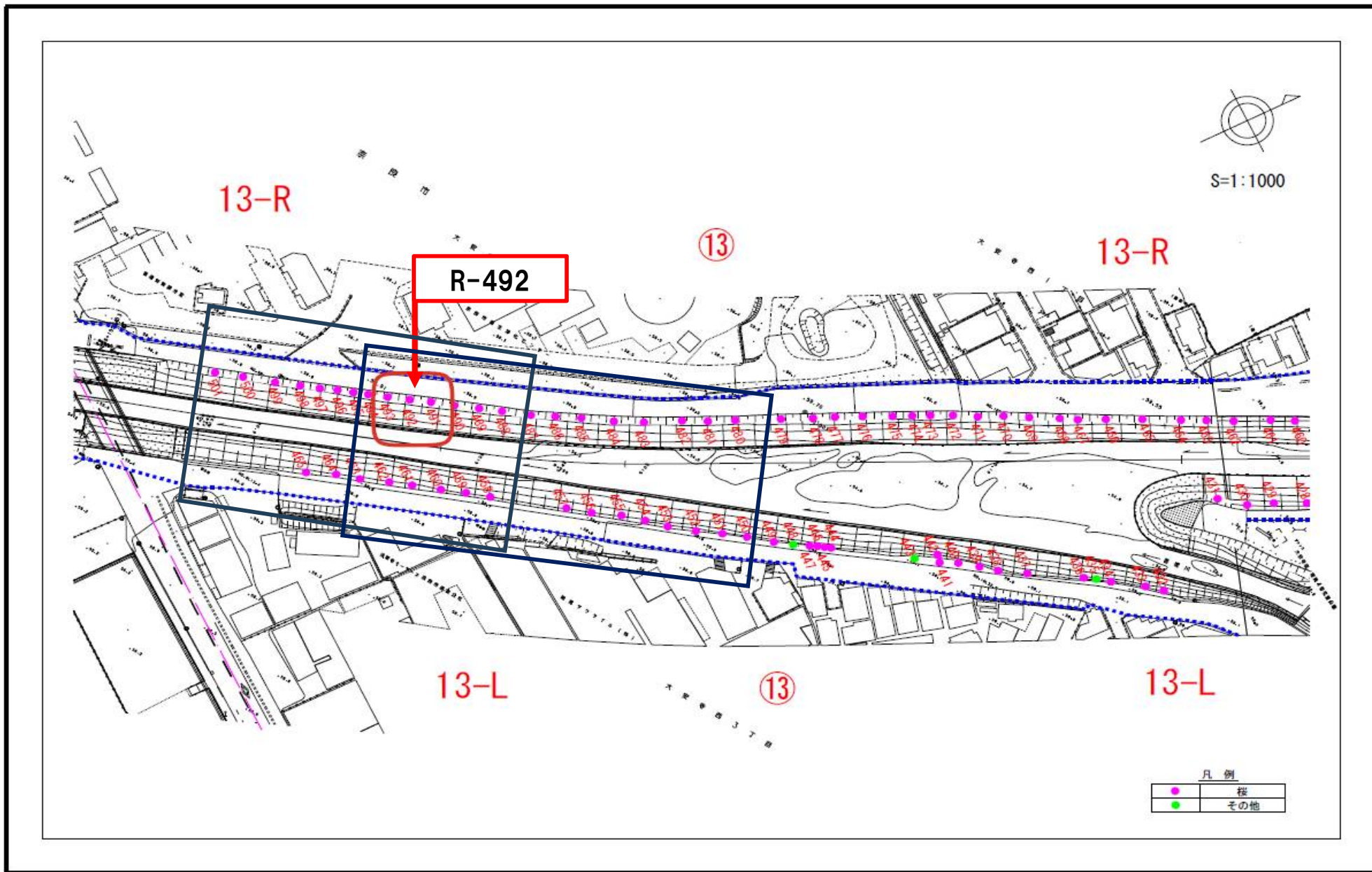


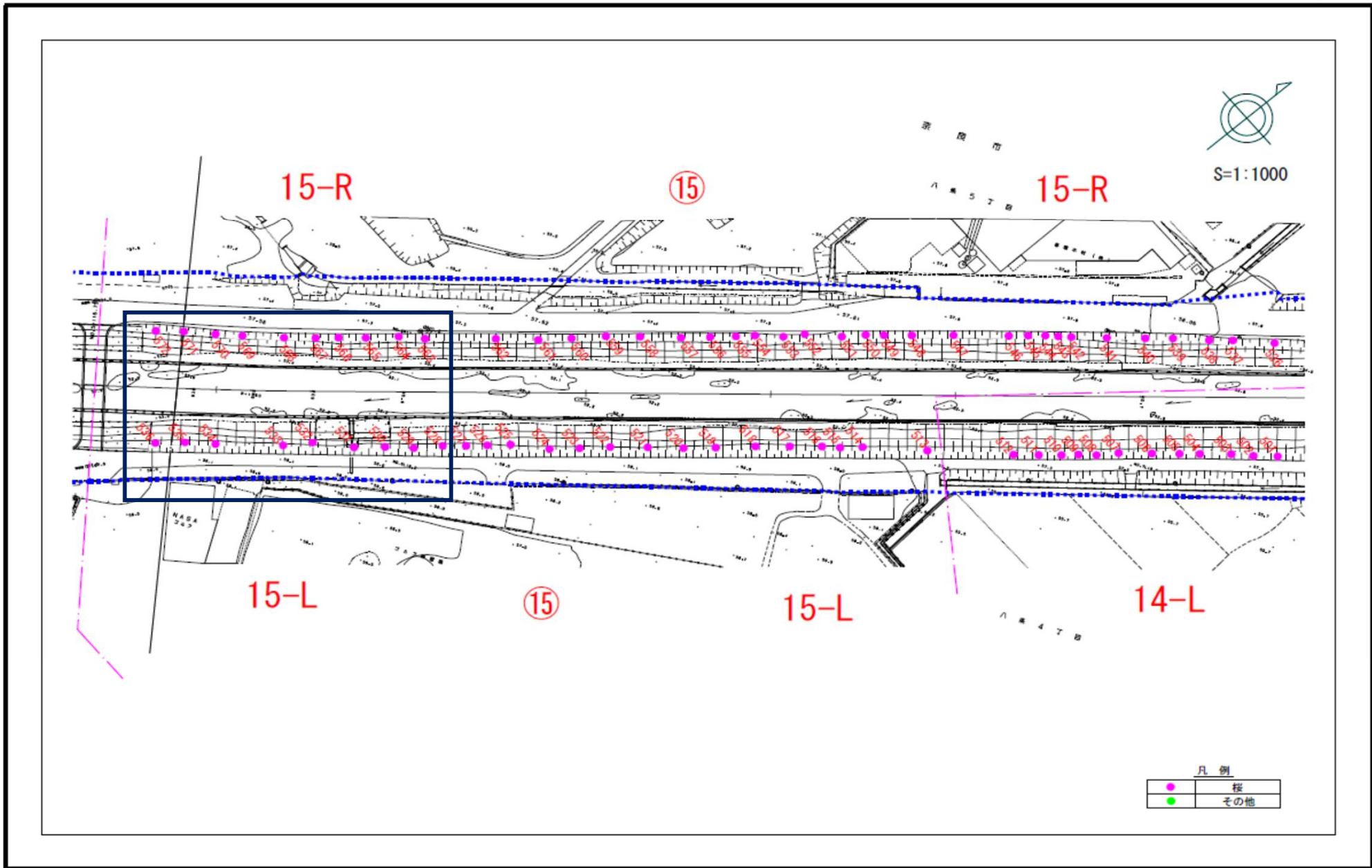


S=1:1000

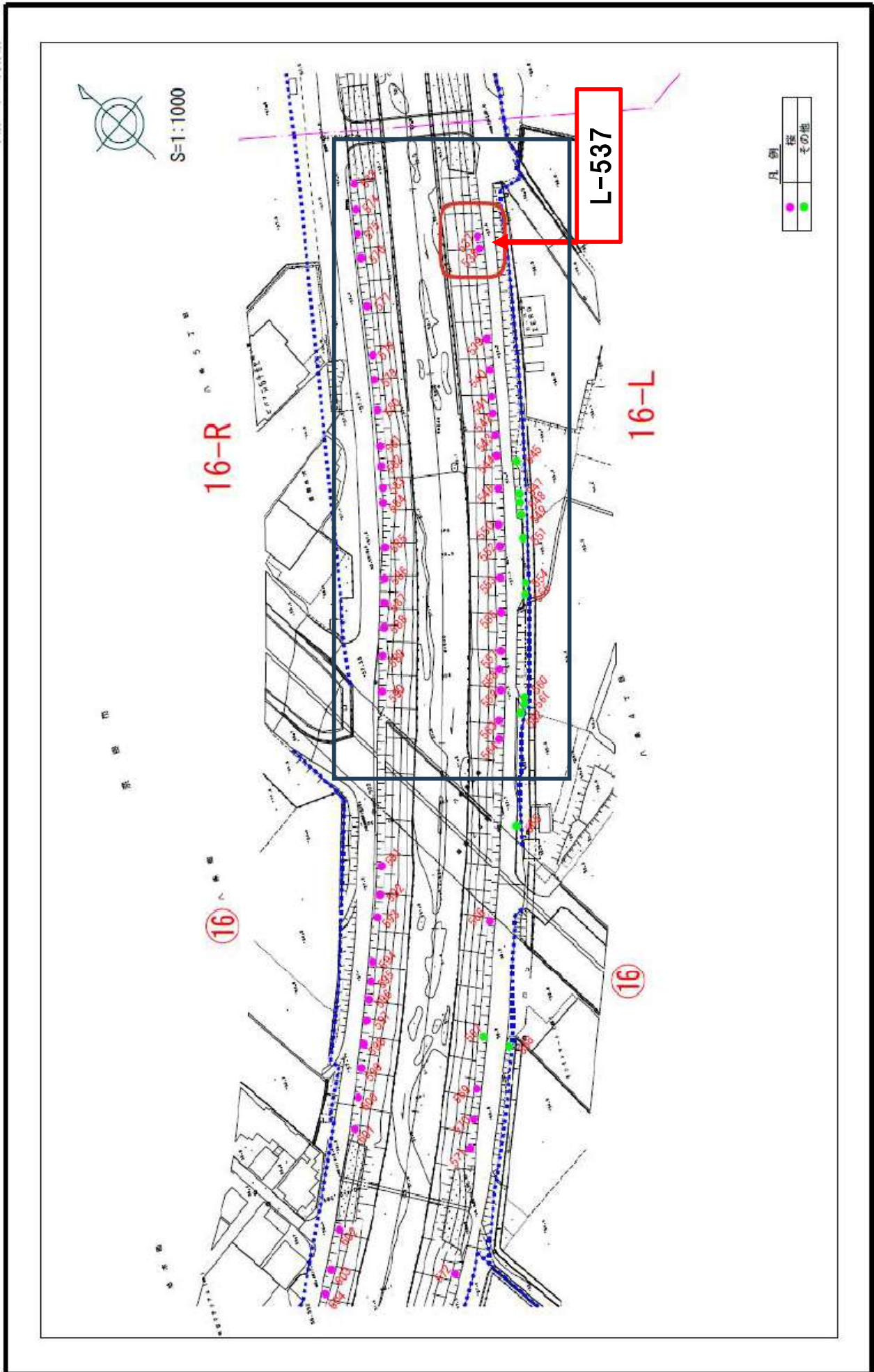


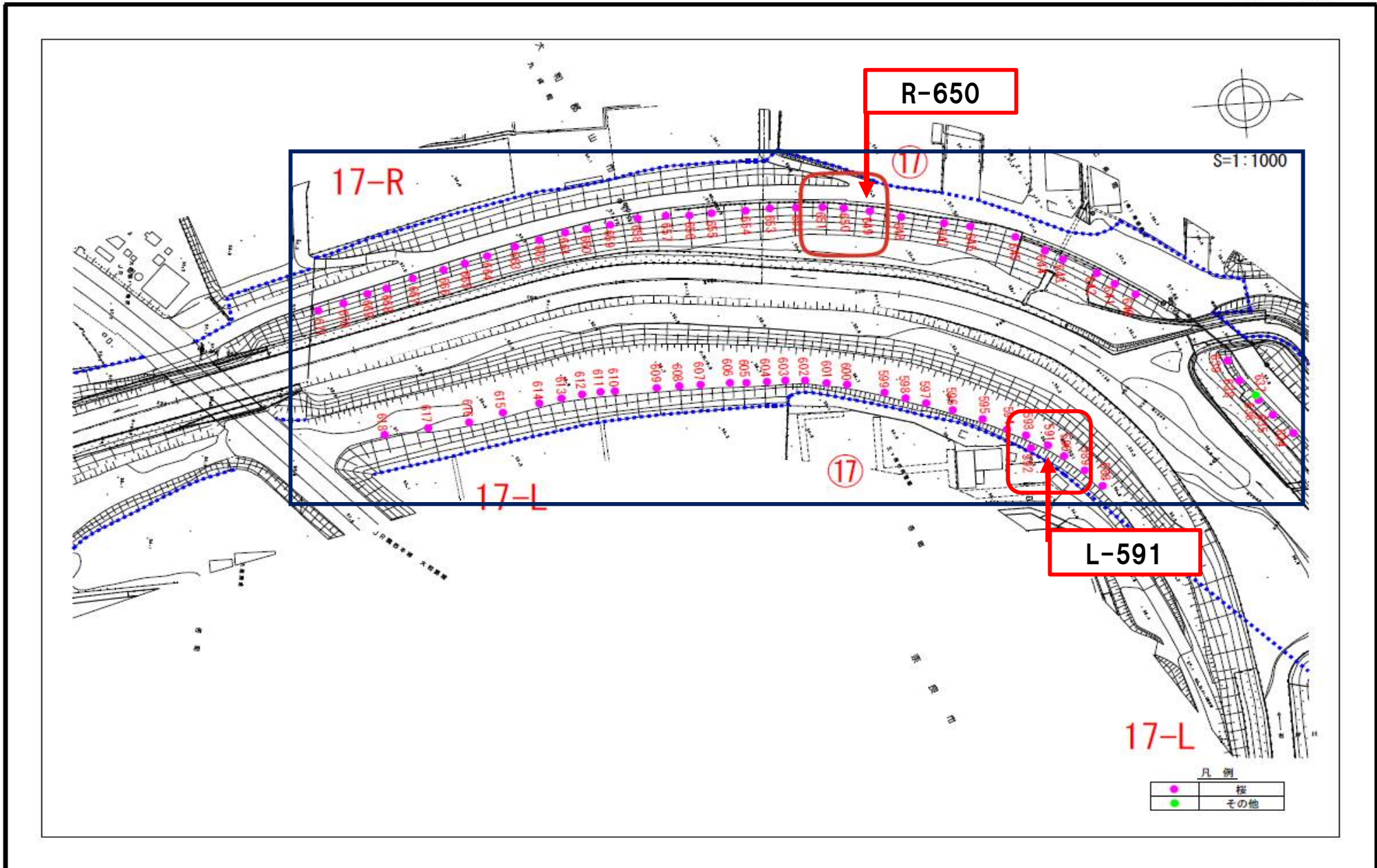
凡例	
● (pink)	桜
● (green)	その他











「樹幹注入総括表」

発生樹木 確認No	ブロック名	樹幹注入 実施数量 樹木本数	樹木番号	※リバイブ注入本数(20mL/本)				備考	
				2倍量注入		3倍量注入			小計(本数)
				樹木本数	注入本数	樹木本数	注入本数		
R94 (右岸2) L87、95、114 (左岸3)	左岸2、3	26	L-82~127	12	136	14	276	412	
	右岸2、3	27	R-82~122	21	252	6	122	374	
R151 (右岸4)	左岸4	22	L-147~170	22	200	0	0	200	
	右岸4	19	R-146~164	13	127	6	100	227	
R492 (右岸13)	左岸13	16	L-450~465	16	187	0	0	187	
	右岸13	20	R-480~501	14	173	6	112	285	
L537 (左岸16)	左岸15	8	L-528~536	8	105	0	0	105	
	右岸15	10	R-563~572	10	110	0	0	110	
	左岸16	18	L-537~564	14	147	4	75	222	
	右岸16	18	R-573~590	18	214	0	0	214	
L591、R650 (左岸17) (右岸17)	左岸17	31	L-588~618	24	350	7	153	503	
	右岸17	37	R-634~671	31	387	6	108	495	
合計		252		203	2,388	49	946	3,334	

記事:(参考)

樹幹注入の対象範囲(参照:箇所図①~⑥ 発生樹木は赤枠で表示)

①3倍量注入箇所は、被害木を中心に両隣2~3本は「3倍量」で注入を行う。

②2倍量注入箇所は、被害木を中心に上下流方向に各50~100m程度の範囲を対岸も含め「帯状」に注入(予防対策)し、成虫の移動・産卵をブロックする。

③右岸17・左岸17については、フラス発生重点調査確認が比較的難しい為、広い範囲の樹幹注入による予防を行う。

